

ラウダート・シの取り組み

2023年7月18日

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会 日本管区

緑を増やす・環境保全

緑を増やす活動として、生ごみを肥料にする装置を導入し、畑の作物に還元し、野菜、花や植物を育て始めました。生野菜は、無駄なく使いきるために、冷凍、乾燥などの食品加工を施して保存性を高めています。

環境保全の活動として、私たちの管区は車を持ちません。スーパーの見切り食材を購入し、食器洗いの際に油汚れは、古布で拭き、エコたわしで洗います。ゴミの分別も徹底しています。環境に関する講演会に参加したり、北九州市の公害克服の歴史を学び語り継ぐ姉妹もいます。



NPO 法人アルペ難民センターでの奉仕

2021年より、姉妹をNPO法人アルペ難民センターに派遣し、「日本カトリック正義と平和協議会」、「日本カトリック難民移住者移動者委員会」からのよびかけ（募金、署名など）に、深い理解の元で協力することができるようになりました。その姉妹の活動は、主にNPO法人アルペ難民センターの食事の提供ですが、入居者や元入居者とともに歩むことも大きな仕事です。

また、その姉妹に本会経営の学校や修道院、アソシエート（一般信徒の協働者）の場で講演をしてもらい、生徒、教職員、姉妹の意識を高めました。



傾聴ボランティア

2011年に起こった東日本大震災の被災者と寄り添う傾聴ボランティアは、桜の聖母学院生涯学習センター「傾聴ボランティア養成講座」の受講生が始めたものです。現在は、福島市ボランティア連絡協議会にも加入し、他の被災地の傾聴ボランティア団体と交流しながら、共に発展を続けています。

一方、震災直後、桜の聖母学院の学校法人コングレガシオン・ド・ノートルダムと宗教法人コングレガシオン・ド・ノートルダムが「東日本大震災ともしび会」（桜の聖母学院の児童・生徒・学生の就学のための生活支援団体）を、また、桜の聖母短期大学では、福島県復興に向けた学び「福島学」も始まりました。



コロナ禍で、多くの被災者の家族が孤立しないように ZOOM での傾聴活動を深めたり、対面での傾聴を工夫し活動しています。政府が推奨する原発や原発で働く家族とのかかわる複雑な状況の中で、孤独な状況におられる方々の話を聴く活動です。



教会奉仕 在日外国人と歩む

さいたま教区のつくば教会において、多言語ミサ開催、活動的信徒の霊的支援を行い、教会の子供達の信仰教育、特に初聖体準備、堅信の準備、洗礼の準備、そして聖書の分かち合いを行っています。

また、在日外国人と積極的に関わり、無料日本語教室や文化交流を行い、英語での分かち合いの場も彼らに提供しています。



未来を担う青少年の教育

聖マルグリット・ブルジョワの真の自由への教育を継承し、子供達が尊厳のある生き方を学び、人々と共に生きるよう、NPO 法人アルペ難民センターの姉妹の講演会、様々な募金活動、体験を通して、ラウダート・シの学びを深める支援をしています。

私たちは、教育こそがラウダート・シを生きる基盤になると信じています。



神の愛の現れの観想

現代、私たちが、エネルギーや水、資源を無意識に過度に浪費することで、生態系の循環が乱れ、私たちは多くの自然災害を経験しています。自然が本来の秩序を失いつつあるので、私たちは、大きな建造物のなかで多くの時間を費やし、自然から切り離された日常を送っています。こうして自然や人との関係が希薄になった人、データを過信するあまり、信じるのが難しいと感じる人が生きる意味を見失っています。これらの人々と私たちは出会っています。私たちはこれらの人々とともに生き、全物質界は私たちに神の限りない愛の思いを伝えていることを伝えたいとの望みがこみ上げています。「土、水、山、などあらゆるものは、神の愛の現れです。私たちの神との友情の歴史はいつも、濃厚な個人的な意味を帯びた個別の場所と結びついています。そうした場所に戻ることは、本当の自分を取り戻すいい機会です。」(『ラウダート・シ』84) 現在、私たちは大地の叫びと貧しい人の叫びに耳を傾けるために、環境についての意識を高め、私たちと直接的、間接的に関わりがある方々に、神、イエス・キリスト、人類全体の視点で環境について真剣に考え、発信する機会をつくっています。

【具体的な取り組み】

観想的にいのちの営みをじっくり「観察する」時間を過ごす。

今、私たちはいのちあるものの関係性を再創造するために、象徴として何種類かの果物を食べた種から育てています。自己愛、執着、こだわり、習慣などの殻を破るには、勇気が必要。ときには痛みが伴いますが、その殻から新しい若葉が発芽したように、植物の成長は私たちも主との新しい関わり、人や自然との新しい見方、関わりがはじまっていることを教えてくれています。

